宮城大学 後援会報 Vol.50

発　行
平成30年2月28日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編　集
宮城大学後援会事務局

宮城大学後援会設立20周年記念特別企画

満席の賑わい、さとう宗幸トーク&コンサート ～ふれあいの時を求めて～

宮城大学後援会では大和キャンパス大学祭の行われた10月15日に、後援会設立20周年記念特別企画と銘打ち、歌手のさとう宗幸さんのトーク&コンサートを開催しました。

ヒット曲「青葉城恋唄」で宮城県はもちろん全国でもお馴染みの宗さんのコンサートとあって、開場時間よりもだいぶ前からお客様が集まり満席の賑わいとなりました。

お住いは宮城大学から車で数分という宗さん。「ミュージシャン仲間の誰に聞いても、コンサートが一番やりにくい土地は地元。まして今日は町内会みたいなものですから(笑)」に客席がドッと沸いて、演奏は始まりました。

オープニングの「生きる者の歌」では作詞した永六輔さんとの思い出を、「青葉城恋唄」では漫才の西川きよし師匠・ヘレン夫人をテレビ番組のロケで驚かせたエピソードを歌に添えて客席を楽しませてくれた宗さん。歌い上げた1曲1曲は、様々な理由で社会的弱者として生きる人々への応援歌でもありました。

40年の歌手生活で円熟味を重ねてきた宗さんの歌声は、今なお青春の清々しさを湛えていました。最後の曲「虹を架けよう」を合唱したお客様たちの拍手は、名残を惜しんでいつまでも鳴り響いていました。

（後援会副会長　武田篤彦）

▲全10曲を熱く歌い上げたさとう宗幸さん

娘すずめ▶幕間には学生サークル「娘すずめ」が雀踊りの演舞を披露し、宮城大生のパワーを遺憾なく発揮しました

「親のためのキャリア教育セミナー」開催

子供の人格を尊重し、サポートする心構えを

9月16日土曜日の午後、大和キャンパス400講義室に、事業構想学群特任准教授の宮崎良徳先生を迎えて、「親のためのキャリア教育セミナー」を開催しました。昨年の9月に初めての企画として開催したときは、講演を拝聴して質疑応答に移るスタイルでした。それはそれで大好評でしたが、2回目となる今回は、席の近い参加者同士で相手の話を聴き、言葉を返してみる、相談の実践演習を交えたスタイルも加わり、お互いの照れも入って盛り上がりました。隣り合って座った夫婦間で、しなくてもいい相談をしてしまった参加者もいらしたかもしれません。

宮崎先生の講演の主旋律は、親子の関係だからといって、親は上から目線になってはいけないこと、子どもに言うことをきかせよう(コントロールしよう)とするのではなく、子どもの人格を尊重してサポートしようという心構えが大切だ、というものでした。参加者からは、自分が若い頃親に言われていやだったことを、気づいたら自分が子どもに対してやっていた、という反省の弁も聞かれました。

（後援会会計書記　阿部成雄）

▲講演する宮崎良徳氏

▲隣同士で相談の実践演習をする参加者

記事一覧
2面●後援会役員・学生代表意見交換会／「絆」
3面●コラム／宮城大学 就職支援の取り組み
4・5面●大学祭2017 キリンビールのイベントに参加して
6面●サッカーサークル地区大会を経て全国大会出場／仙台ロイヤルパークホテルとロールケーキを共同開発
7面●宮城大学×お茶の井ヶ田「喜久福で祝福プロジェクト」／「森の学校」グッドデザイン賞受賞
8面●教員からの一言／大学からのお知らせ／終身課員制度案内／総会案内

宮城大学後援会報 vol.50 ｜ 平成30年2月28日発行 ｜ 編集・発行 宮城大学後援会事務局

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
公立大学法人宮城大学 学生支援グループ内
TEL：022(377)8381
FAX：022(377)8282
E-mail：kouenkai@myu.ac.jp
URL：http://www.myu.ac.jp/~kouenkai/

教員からの一言

看護学群の国際担当として

看護学群教授　塩野 悦子

私は2015年より「実践看護英語演習」担当者としてフィンランド研修を調整し、今年度からは国際看護プログラムも担当しております。また、2014年よりJICA青年研修「母子保健管理コース」を宮城大学で受け入れ、これまでモンゴル・中央アジア・アフリカ英語圏の若手の助産師・産科医らの研修を支援してきました。というわけで、私はここ数年で事実上の看護学群国際担当というわけです。おかげで、英語でメールを書く機会が増えたり、ロシア語で挨拶してみたり、アフリカの助産師とSNSでつながったり、宮城大学にいながら自由に世界との接点を楽しんで？います。元来こういうことが好きだったのだと思いますが、英語はなかなか上達しないものです。私は高卒後なぜか独語を学び、2度ほどドイツに滞在経験がありますが、英語の方が役立つようです。当分は留学する学生で擬似留学を楽しみ、やがては熟年遊学を夢見ています。今後も学生の国際看護への情熱を心から応援していきます。

後援会からのお知らせ

後援会終身会員制度のご案内

後援会では父母の方々が、学生の卒業後も宮城大学を支援する終身会員制度を設けています。卒業生の父母の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの方々に入会いただき、大学の精神的な支えとなっています。会員の方には年2回発行の会報、及び主催事業の案内等を20年間送付致します。大学間の生き残りをかけた競争が激化する中、自主自律の運営を目指す宮城大を、更なる充実した支援で、物心両面から支えてまいりたいと考えております。

今年度卒業を予定されている父母の皆さまには、改めて御案内いたしますので、何卒、制度の趣旨を御理解いただき、多くの方に御賛同いただきますようお願いいたします。

平成30年度 後援会総会を開催します

平成30年度後援会総会を東京エレクトロンホール宮城（県民会館）大ホールで開催いたします。議題は、平成29年度事業報告・決算報告、平成30年度事業計画・予算案などです。ご出席くださいますようご案内いたします。

●日時　平成30年4月3日（火）
　入学式終了後11時55分～12時35分（予定）
●会場　東京エレクトロンホール宮城（県民会館）大ホール

（後援会事務局☎ 022（377）8381）

大学からのお知らせ

卒業式のご案内

平成29年度宮城大学卒業証書・学位記授与式を挙行しますので、ご出席ください。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。なお、式場内の座席数は限られているため、満席となった場合は、式場外のモニターでご覧いただくことになりますので、ご了承ください。

式典の詳細は、大学ホームページに掲載しています。
（URL：http://www.myu.ac.jp）

●日時：平成30年3月19日（月）　受付　午前9時開始
　式典　午前10時～11時30分頃
●場所：宮城大学大和キャンパス講堂

（学務課☎ 022（377）8215）

公開講座開催のご案内

❶講座名称：高齢化社会の資産管理と対策
　―相続税対策・遺言・家族信託・成年後見―
❷講師：事業構想学群　准教授　内田　直仁
❸日時：平成30年3月24日（土曜日）午前10時～正午
❹会場：住友生命仙台中央ビル（ＳＳ３０）８階第２会議室Ａ
❺内容：相続対策では、節税対策に注力される傾向にあります。しかし、節税と納税のしやすさは別次元の話です。また、節税と遺産を多く残すことは別次元の話です。節税に成功したが破産するケースもあります。また、遺言書も必ずしも争族防止になるとは限らず、裁判リスクを高める危険性がある等、相続対策でのメリット・デメリットをお話します。
❻申込方法：FaxまたはＥメールに受講する講座名、氏名、住所、電話番号、職業、年齢（○歳代）を記入して、開催日の３日前までにお申し込みください。
❼申込先：宮城大学サテライトキャンパス
　宮城県仙台市青葉区中央４丁目6-1
　住友生命仙台中央ビル（SS30）２階
　Tel：022-716-6692　Fax：022-716-6693
　Email：myu-satellite @ myu.ac.jp

（地域連携センター☎022(377)8208）

編集後記

以前本誌に石川伸一教授のコラムを掲載しました。「食材を分析する科学の力と、調理の技術が互いに関係し合い、おいしい料理に発展する」という研究のテーマを、「分子調理」という言葉で伝えていただきました。そこから編み出された「料理の式」。料理の素材がどんな状態か（液体か固体か、重なっているのか包まれているかなど）を分析し、式に表しているそうです。

本誌で紹介した「ロールテラミス」はその応用で商品化され、ホテルで提供されました。今回の「料理と科学のおいしい出会い」はちょっと大人の味わいで、優雅な雰囲気を引き立てる、ホテルに相応しい一品でした。（S. I）

後援会役員・学生代表意見交換会

支援の充実、学生との対話から

後援会役員と学生代表の意見交換会が、11月15日(木)大和キャンパス、11月22日(水)太白キャンパスで、開催されました。

各学生委員会からの活動報告後、役員・教職員から質問やアドバイスが出され、貴重な意見交換の場となりました。

▲大和キャンパス意見交換会

大和キャンパスでは、学生会執行部をはじめ、大学祭実行委員会以外の委員会で、人員確保や後継者不足が継続的な課題として挙げられました。活動のモチベーションなどを掘り下げる話し合いの過程で、学生から「教職員や後援会に積極的に相談し委員会同士の連携を図るなど、自ら取り組みを工夫していくことが大切なのではないか」との意見が出され有意義な展開となりました。

太白キャンパスでは、人員確保の課題に加え、学生会に貸与されている印刷機利用について問題提起されました。教職員や役員からは、活動のPR強化と印刷機利用の現況把握など要求集約に向けた指摘がなされ深い議論となりました。

また、両キャンパスに対し、後援会の活動助成が適切に機能するよう、総会運営やキャンパス間交流、意見交換用資料準備の充実などが確認されました。

後援会は今後も、実り豊かなキャンパスライフのために、支援を続けてまいります。

(後援会会長　齋藤浩美)

▲太白キャンパス意見交換会

絆 No.19

在校生、卒業生、父母、教職員などさまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。今回は卒業生の菊地友さんにご登場いただきました。社会人となった今も大切に思う、大学時代を振り返っていただきました。

すてきな思い出の詰まった4年間

事業計画学科16期生(H27年度卒)　菊地　友

社会人になり、もうすぐ3年目が終わろうとしています。この3年は、大学にいたころよりもスピードを上げて、あっと言う間に過ぎていきました。大学の友人と会うたびに、「卒業からもう3年経ってしまった。」というやり取りが出てきます。

大学での4年間を振り返ると、たくさんのチャンスをもらっていました。入学前から憧れていた「娘すずめ」に入れたこと、ベトナムに行けたこと、大学祭実行委員で副委員長をやらせてもらえたこと。金子先生のゼミで学ばせてもらえたこと、大好きな人たちと出会えたこと。チャンスをもらえたからこそ、様々な経験を積むことができました。

▲大学時代、学生団体の代表として社会貢献運動にも取り組んだ菊地さん=前列左から4人目

そして、時間が経って記憶は薄れていきますが、しばらくは忘れられないだろう思い出が、いくつもできました。

大学生活で、後悔したことも、反省したことも、やり残してしまったこともあります。それでも、完璧な大学生活ではなくても、こんなにもすてきな思い出の詰まった4年間になるのです。そんな4年間を過ごせたことに、社会人として過ごす今、感謝の気持ちでいっぱいです。

のびのびと過ごしていたせいで、両親には、迷惑も心配も山ほどかけたと思います。実家での生活を窮屈に思うこともありました。それでも、会話し、本気で笑い、怒り、時に泣いたりもしながら過ごした毎日が、一人暮らしの今となってはとてもあたたかく、懐かしく感じます。4年間、見守ってくれてありがとう。あの時間があったから、社会人3年目の今も頑張れています。

卒業して3年、社会人になって3年。これからまた先の何年も、大学で得たものを忘れないよう、大学での生活を超える何かを得られるよう、努力していきたいと思います。

内田先生の会計学コラム㊦

column

自由でいたいから法を守る

事業構想学群准教授　内田　直仁

法はなんのために存在するのでしょうか。一つの側面として、自由な生活を守るためといえます。それは、相反するどちらの自由を制限するかを決めているともいえます。極論ですが、人に暴力を振るいたい人がいるとします。その自由を認めると暴力を振るわれる人がでてしまいます。それは、許しがたい状況ですよね。だから、暴力を振るわれず安心して暮らせるため、暴力を法で制限しています。でもこれは同時に暴力からの解放(自由)ともいえるでしょう。社会においての自由は、このような規律ある自由の方が、居心地の良いものといえるでしょう。

対立する自由のどちらを選択するかは、民主主義にあるといえます。法学の世界、とりわけ私の専攻の租税法では、法と法律の違いを重視しています。法律は、法の中でも国民の同意のあった法だけを指しています。憲法に租税法律主義というものがあります。これは、国民の同意のない課税を禁ずるとしたものです。世には、悪法と思われるものも存在します。悪法も法としてあきらめてはいけません。日本は、建前上、法よりも人権を優先する、法の支配の国です。法のために人や社会があるわけではなく、人や社会のために法があります。ですから、多くの人々の自由や幸福を脅かす法があるとしたならば、民意で改正する努力が必要と思われます。これは、職場の規則や家族の約束事も同じことでしょう。

宮城大学では、暗記するように法や会計規則を教えることを避け、その思想・哲学の理解を大切にして、社会の自由に貢献できる教養のある人材教育に努めています。

▲内田先生、ノルウェーでサンタと共に

うちだ なおひと

事業構想学群准教授。会計学(社会関連会計)・租税法学(相続税法専攻)。MBA(立教大学)、税理士。会計事務所、東海大学を経て現職。

宮城大学 就職支援の取り組み

全学対象に初の試み、経済同友会講演会を開催

1月17日(水)大和キャンパス講堂にて、日産自動車株式会社取締役、株式会社産業革新機構代表取締役会長(CEO)の志賀俊之氏による講演会を、経済同友会のご協力のもと開催しました。本学では、全学の学生を対象とした企業経営者による講演会は初の試みでしたが、当日は3学部・学群の1年生から4年生まで計686人の学生が集まり、講堂はほぼ満席となりました。

講演では「グローバル化の中で求められる人材」というテーマのもと、グローバル化していく世界の中で、日本人が外国人と対等に渡り合っていくために必要となる素養について、様々な事例を織り交ぜながら紹介をしていただきました。特に「失敗を恐れずに何事にもチャレンジしてほしい」という言葉には、何度も困難を乗り越え、目標を達成してきた自身の経験談によるもので、説得力があり、多くの学生が感銘を受けた様子でした。

講演終了後の質疑応答では、質問希望の学生が絶えず、熱気に包まれながらの閉会となりました。

(学務課　萩野俊輔)

▲講演する志賀氏

▲講演終了後、学生から質問が相次いだ

後援会のサポート

●「事業構想学群・食産業学群合同業界研究セミナー」

学生が業界や企業について直接企業・団体の担当者に説明を聞く機会として毎年開催しているものでその費用を継続的に支援しています。

今年は12月13・14日の二日間にわたり、本学を会場に宮城県内や首都圏などから、延べ80を超える企業・団体に参加いただきました。

●「公務員試験対策」

後援会20周年記念事業の一環として、実施費用全額をH29年度より期限付きで特別支援しています。

これまで627冊(大和444冊・太白183冊)の公務員試験対策図書の購入と、3学部・学群ごとの試験対策セミナーを年間で計画し、随時実施しています。

IBUKI BREWER' S MEETING

キリンビールのイベントに参加して

食産業学部ファームビジネス学科
4年　**漆澤　桃香**

宮城大学後援会 20 周年記念誌の対談企画でキリンビール仙台工場長さんにお会いしたことがきっかけで、キリンビール仙台工場主催のイベントに参加することとなりました。

このイベントは、ビールに欠かせない原料の一つで「ビールの魂」ともいわれているホップ。その中でも東北で栽培されている国産ホップ「IBUKI（いぶき）」の魅力や特徴を紹介するというものです。

ホップの生産者さんやビールの醸造家さんが紹介され、東北産ホップ IBUKI から作られたクラフトビールと一緒に、地元食材を使った料理が振る舞われました。食産業の持つ可能性と、それに携わる人たちの力強さ、そして東北にはこんなに沢山の美味しいものがあるのだという、自分が育った土地への誇りにも気づかされました。イベントには一人で参加だったため、初めは、大人の人たちが集う中、楽しめるのかという不安もありましたが、美味しいビールと食事を囲みながら、初めて会う人たちと自然と会話を楽しむことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

“食”がもつ、人と人とを結びつける力は凄いと実感した瞬間でした。

記念誌の対談でキリンビール工場を訪れた漆澤さん（右）と勝見さん

MYUFES.2017

―太白キャンパス 10 月8･9日、大和キャンパス 14･15 日に開催―

ようこそ『Aramyuan night』へ

大きな事故なく、大成功で大学祭を終えることができました。

今年は「学生自身の力」を十分発揮できた大学祭でした。恒例の大階段を使ったアートはダイナミックな出来栄えで、協賛企業の株式会社アイデムの Twitter でも発信され、効果的な宣伝を行うことができたと感じています。

メインオブジェとして作った「城」は、小さいこどもが中に入れるほどの大きさで、実際、幼稚園くらいの子供たちが母親と一緒に城の中に入り、写真を撮ってもらう光景が多く見受けられました。来場者に喜ばれる作品が作れて本当に良かったと思います。そのほかのオブジェや企画も、個人が実現したいものを作りました。

テーマの「Aramyuan night」は、実行委員、学生、ゲスト、来場者の方々、協賛企業、そして大学祭を支えてくださった後援会の皆様で作り上げたものと思っています。

来年もきっと盛り上がる大学祭ができると信じています。大学に新鮮でダイナミックな風を吹き込むような大学祭作りを後輩に託したいと思います。今後とも皆様の応援をよろしくお願いいたします。

（大和キャンパス大学祭実行委員長　事業計画学科2年　米倉奏多）

大学祭を盛り上げる華やかなステージ

風せんアートを楽しめる屋内展示

豊富なメニューで来場者をお出迎え

伝統の餅まきに来場者から歓声があがる

太白キャンパスのマスコット、やぎの「小梅」

「食の歴史」を模擬店で＝多くの研究室、有志が出店

大和からの応援にかけつけた「娘すずめ。」

正面玄関前に設けられた今年のステージ

『食の歴史』を体感せよ!

2017 年度太白キャンパス大学祭は、天候にも恵まれ無事終えることができました。

今年は「FOOD ADVENTURE ―カルチャー食ヲ体感セヨ―」をテーマに開催しました。食産業学部として『食の歴史』を模擬店で感じてもらえる大学祭にしたいという思いがありました。各研究室や有志の方々の協力を得て、多くの模擬店を出店することができました。おかげさまで、来場者の皆様には『食の多様性』や『食の進化』というものを感じていただけたのでないかと思っております。

また、カルチャーショックというテーマには『食の歴史』だけではなく、例年の大学祭からの大きな『変化』や『進化』という思いも込めていました。ステージ場所の移動やステージイベントの大幅な変更、模擬店の配置など様々な変化を組み入れました。上手くいったかは別として、例年とは違う新たな太白キャンパスの大学祭をお届けすることができたと思います。

後輩のみなさんには来年以降も、来場者の方々に『進化』を感じていただけるようなオリジナリティー溢れる大学祭を作りあげていってもらいたいと思います。

最後になりますが、ご来場の皆様、大学祭に関わってくださった皆様に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

（太白キャンパス大学祭実行委員長　フードビジネス学科２年　斎藤柊斗）

サッカーサークル地区大会を経て全国大会出場

フットサル北海道・東北大会優勝への道のり

事業構想学部事業計画学科　竹内　健悟

私たちサッカーサークルは昨年、アイデムカップというフットサル大会の北海道・東北大会で優勝し、全国大会に出場しました。県予選優勝と東北大会出場を目標として大会に臨んでいた私たちにとって、東北大会優勝、そして全国大会への出場はまさに夢のようなものでした。

全国大会までの道のりはとても狭き門でした。まずは春、夏に各県で開催される地区予選で、優勝または準優勝することで東北大会への出場権が得られます。私たちは春の県予選においてベスト4となったものの一歩届かず、東北大会への出場権は得られませんでした。そしてリベンジとして臨んだ夏の県予選、チームは4年生で構成されていたため最後のチャンスでした。背水の陣という形で挑んだこの大会では優勝することができ、東北大会出場を決めました。

10月に行われた北海道・東北大会には、各県予選を勝ち抜いた12チームが参加しました。その中には、仙台大学サッカー部や東北学院大学サッカー部といった強豪チームも参加していました。前評判の低かった私たちは下剋上を目指し、この大会に挑みました。その結果、決勝まで順調に勝ち進むことができました。最後の相手は岩手大学。相手に先制点を取られ残り1分半という状況でしたが、そこから1点を返し同点。さらに残り20秒で追加点を決め逆転し、そのまま逃げ切り、優勝することができました。この結果、北海道・東北エリアの代表として全国大会への出場権を手に入れることができました。

この経験は、大学生活で最高の思い出となりました。また、チームで一つの目標を成し遂げる達成感を味わうことができ、とても充実したものとなりました。後輩には今回を超える結果を出して、よりサークルを盛り上げて欲しいと思っています。

▲全国大会出場を果たした4年生メンバー

仙台ロイヤルパークホテルとロールケーキを共同開発

「料理の式」で学びの成果

食産業学部フードビジネス学科2年　森　大和

今年1月、宮城大学分子調理サークルｉNuevo!と仙台ロイヤルパークホテルのシェフが共同開発した「ロールティラミス」が、仙台ロイヤルパークホテルで1ヵ月限定で販売されました。

事の始まりは昨年の春、分子調理サークルｉNuevo!の活動で顧問である石川伸一教授から指令が下りたことからです。

「宮城大学20周年記念レセプションで出す新しい料理を考えよ」

サークルメンバーはすぐにメニューの考案に取り掛かりました。料理の条件は、石川教授が研究を進めている「料理の式」を用いて、ホテルの人気デザートのティラミスと同じ材料を使って新しいものを作るというものでした。サークルメンバーはまずティラミスを式に表し、その式を改変し、改変後の式をもう一度料理として再現することで、新しい料理を開発しました。

レセプションでは大学関係者や来賓の方から高評価を頂きました。そしてホテル側からは、このスイーツを是非ホテルの月替わりメニューに加えたいとの申し出をいただき、商品化が決定しました。また、これを機に今後もコラボという形で互いの関係を持続していきたいとのコメントも添えられ、この企画の成功で私たちは今、とても達成感を感じています。

▲今月のロールケーキとしてホテルに登場した「ロールティラミス」

▲シェフ（左）との入念な打合わせ

宮城大学×お茶の井ヶ田「喜久福で祝福プロジェクト」

スイーツで新成人を祝福

事業構想学群教授　高力　美由紀

事業計画学科の高力ゼミナール（マーケティングゼミ）では、事業演習で自分たちが考えたプロジェクトを企業に提案するという活動を行っています。喜久福が大好きな現4年生のチームＫＫＦＫ（喜久福の頭文字）は3年次に「喜久福のプロモーション」提案を行い、その中の一つ、若い世代に地元の代表的スイーツに親しんでもらうために成人式のお祝いに喜久福を配布する、という提案が井ヶ田さんとのコラボーレーションにより実現しました。

1月7日に実施された成人式の特設ブースで、「祝福」と名付けた紅白の喜久福を約４００名の新成人に配布しました。「喜久福」は、発売から20周年。今年20歳を迎える新成人の方々とは〝同学年〟ということで、共に、成長してきた喜びと幸福を「シェア」することが企画のポイント。来店を促すインスタグラムへの投稿と併せた特典券の配布、パッケージデザイン、ブース装飾まで井ヶ田のスタッフの方々との協働で実現し、大盛況のうち無事終了。当日のうちにも特典券を持って若い方がお店を訪れる等、プロモーション効果も実感できる取り組みとなりました。

▲パッケージデザイン（学生が考案）

▲大盛況のブース

地域と共に取り組んだ「森の学校」グッドデザイン賞受賞

「森の学校から始まる持続可能な未来創造」

事業構想学群長　教授　風見　正三

古来、人間は自然と共に生き、その恵みによって持続可能な社会を醸成してきた。東北地方は、美しい自然に支えられた豊穣の地として発展を遂げてきたが、2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北や関東の沿岸部に壊滅的な打撃を与え、東北の豊かな地域産業も大きな打撃を受けることになった。筆者は、被災地の大学人、都市計画家として様々な震災復興に携わるとともに、宮城大学風見正三研究室として、大津波で流された小学校を「森と一体となった学び舎」として再建する「森の学校（東松島市立宮野森小学校）」の構想・計画に携わることになった。「森の学校」は、行政中心で進められることの多い「公立小学校」を地域と共に構想・計画・実現した事業であり、この取り組みに対し、2017年度のグッドデザイン賞を受賞することになった。「森の学校」の目指すべきビジョンは「森を媒介にしたコミュニティ創造」であり、森を活かした教育、馬搬を導入した林業、森林セラピーを指向する医療、森林を媒介とする観光等、地域の自然を活かした持続可能な地域産業の創出が大きな目標となっている。

大震災を超えて、これからの日本の未来を創造していくための大きな鍵は「日本古来の生活や産業の復興」にある。「森の学校」は、こうした自然と共に生きる新たな生活や産業を創造するための基盤となる「自然への畏敬」や「地域循環システム」を体感していく21世紀の学び舎となるものであり、持続可能な未来を創造するプラットフォームになっていくことが期待される。